

禅のめざすもの

平成三十年五月二十二日 於加茂法話会

一、禅はどう承けつがれてきたか？
相伝の形式

二、相伝されたものは、何か。

お釈迦様の正法であり、悟りとは、どのような内容か。

①二十九歳の時、十二月八日の早暁（そうぎょう・明方）菩提樹下で悟られた。

②禅宗では、明星出現の時にさとられた、一元の世界になった。

「以心伝心」いしんでんしん・とは、

師たる者が、まず、体験し、弟子となって参学（さんがく）する者が、それにならって、また体験する。

師と弟子とは、個性が違うから、大変であるが、同じことを体験するのである。心から心に伝えるというが、実は、授けつものがないし、受け取るものはないのです。

三、靈鷲山でお釈迦様か、説教で一本の花を献じた。魔訶迦葉尊者がニッコリ微笑んでた。

達磨の弟子・道副（どうふく） 尼總持（にそうじ） 道育（どういく） 慧可（えか）

「皮・肉・骨・髓」（ひにくこつずい） 慧可だけが九拝した。

師の禅的体験を自己の体験とし、師の宗教的人格を、自己の人格として活かすこと。

禅を相伝するには、師と弟子の親しき触れ合いが必要とされます。

人が人について人を学ぶのがぜんである。

四、禅と日常生活

1、自己に対する面・・・喜心・・・生命の尊厳性・・・心が動く

2、他己にたいする面・・・老心・・・他を愛し尊敬・・・赤の他人

3、物事に対する面・・・大心・・・物資愛護生活・・・時間が無い

正壽寺住職吳定明合掌